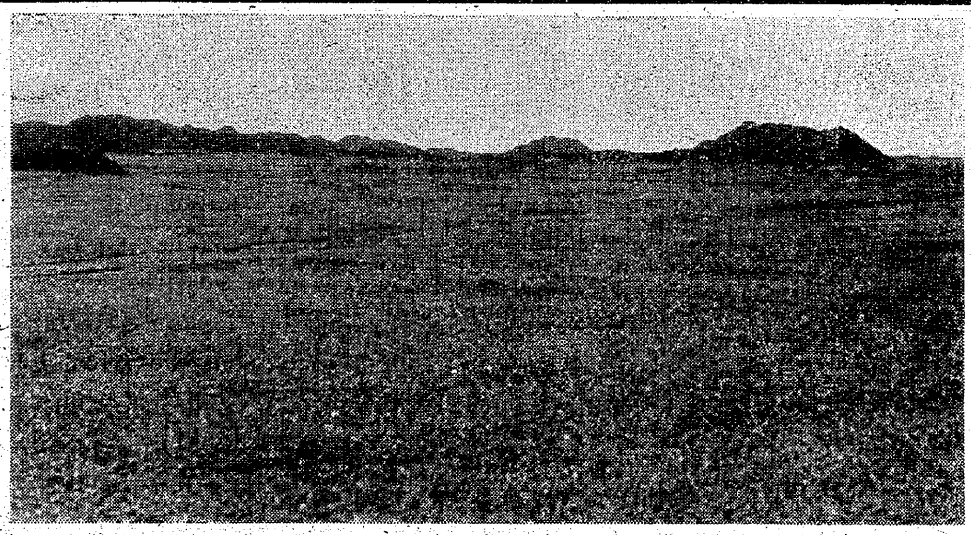
新労がストするなら

他産業なみの賃金くらいは



貯炭の山は、今どこでも消えてしまつた。

インフレだ、不況だ、と大変な昨今ですが、石炭は今掘っても、掘っても足りない。

もっとも石炭政策が決ったわけでもなく、不安定だが、賃金だけは他産業なみに出させなくてはね。

いつまでも〝C作業〟（請負給の仕事）、残業、公休出勤でもなかろう。

×　×

坑内での話の一部――

「今年の賃上げは、どんくらい上がると思うな」

「さあ。こん前千四百円だったけん、千二百円ならまあまあやろ」

「そんくらいで良かな」

「よかじゃろたい」

「そんくらいじゃ、でけんが」

「炭労・三池労組に頑張ってもらわにゃ―」

「じょうだんのごつ。こんどは新労に頑張ってもらわにゃ」

「新労が頑張って、ストでんするならとるるとバイ」

炭労要求、一万二千百五円。

新労要求、一万千八百二十円

×

三川指導部七分会新聞〝あせ〟（NO・九八＝三月三日発行）

炭労、政策闘争強める決意

今も腰の決らぬ政府

口ばかりの「石炭重視」

炭労は、三月二十五日から三日間東京で、炭鉱労働者二十五人を結集して第一次中央行動を開、新石炭政策確立をめざしてたたかった。こんどの行動は、今もなおこの政策にたしかな方向を見きわめようとしない政府・資本に向けられた行動だったが、それぞれの姿勢にいくらかの前進こそ見られたものの、期待は大きく裏ぎられた。したがって、炭労はさらに政策闘争を継続・強めてゆくことにしている。

対政府交渉のうち、通産省に対して炭労が要求したことは、

(1)長期の視点に立った総合エネルギー政策の具体的方向

(2)新石炭政策確立にあたっての基本的立場

(3)石炭政策の現状をふまえた当面の対策

だったが、これに対し明らかとなった通産省の考え方は次の通りだ。

第一に、石油の大量輸入の可能性、立地問題も含め原子力発電実用化の可能性、その他エネルギーの確保の問題について、十分根拠のある将来への展望がないまま、長期的なエネルギー供給計画を立てており、一昨年の石油ショックの教訓が正しくつらぬかれていない。

第二に、エネルギー資源として石炭を重視する、国内炭の開発促進をはかる、とのべながら、具体的にはただ現在の路線を手なおしする程度のことしか考えていない。

第三に、当面の対策についても、新石炭政策発足の時期を、あくまで五十一年度からと当初の目標を変えようとしないこと。

このように、基本的に何のかわりもない。

それは、労働省の場合とて次のように大同小異である。

(1)雇用の確保や福祉対策は、石炭政策の長期展望が明らかになった段階で検討する。

(2)炭鉱保険の財政対策は、厚生省の問題だ。

(3)炭鉱労働者の賃金は、直接的には労資の問題だ。（昨年の春闘の際、全鉱との賃金格差を指摘したときよりむしろ後退した）

では、石炭資本との交渉面ではどうだったか。

第一に、企業危機克服策については、経営改善資金の拡大、生産維持に必要な価格を補償するとの観点に立った炭価ルールの設定、を必要としている。

第二に、体制問題については、私企業の効率性を発揮するという観点から、あくまで個別私企業体制の維持を主張する。

第三に、労働力確保、労働条件や生活環境の改善は、経営の健全化が前提である。それは、国の助成と炭価引き上げに依拠するほかない。

第四に、深部開発にともなう保安、生産対策は、国の政策助成の拡大に依存している。

右に見たように、政府・資本のエネルギー対策は今日でもなおたしかな方向をもっていない。

そこで炭労は、

(1)今後も政府・石炭資本との交渉を継続し、炭労要求にもとづく新石炭政策の確立を迫って行く。

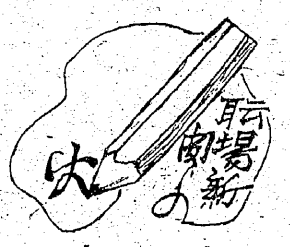
(2)今後も、実力行使・中央行動を積み重ねながら政策闘争を進めて行く。

(3)社会党が〝石炭鉱業安定基本法案〟を提出することと合わせ、院内闘争を進めて行く。

など、政策闘争をさらに強めて行くことをきめた。

なかなかの腕まえ

ぜいたくな希望は？



▼…職場新聞〝あせ〟。三川指導部七分会が、出しつづけている新聞。

三月三日発行のが九十七号。今、一〇〇号記念の原稿募集中つい先ごろ開かれた三川指導部職場新聞活動者会議の折、「〝あせ〟を手本にしている」との報告もあった。毎号埋められている身近かな職場生活に関する記事が、つくづくうらやましい、との声がしきりだった。

▼…事実を見よう。

毎号用紙の両面刷り。（号外は半紙だったり、四分の一切りであったり、自在）

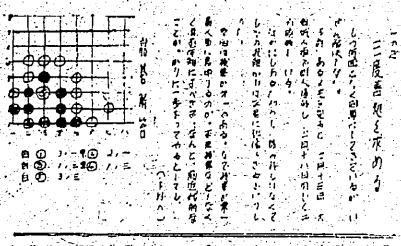
なるほど、身近かな職場の記事がズッシリ。

この号は、一面トップが「すし詰め人事問題。中川主席つみ残し説明に遅れる」。ひきつづき「三度善処を求める」「斜坑人車漏員だ」

二面が「春闘本番」「分会からのお知らせ」「一〇〇号記念・原稿募集」とつづく。（以上、いずれもその見出し）

なお、先号で正解を問うていた詰碁の解答も紹介している。

▼…二段組みで、ガリ文字もなかなかの腕まえ。見出しや割りつけから、全体的なレイアウトなどとりたてて指摘するところも見当たらぬ。



職場新聞〝あせ〟の第1面

豆情報

機関紙活動を規制する公選法改悪。札ビラきってもよろしいがビラまきいけない、と自民党。

×

〝保革伯仲〟から〝保革逆転〟へと燃え上がる地方選。エセ・クリーンにワンツー・パンチ。

×

「子どもの足、長くなる」と文部省発表。教育費高騰で細くなる親のスネ、どうする？

〝みいけ〟を参考に

愛媛　竹田政司

拝啓

第十二回三池にまなぶ全国集会では、本当にお世話になりました。まだ三カ月しか経ってないのに気持がゆらぎ、自分でいかんなあと思いながら、なかなかです。集会の時に使ったハチマキを見ては、反省している所です。

友達と、組合の話をする時よく三池のことが引き合いに出ます。その友達に、機関紙〝みいけ〟を見せてあげました。

原告団の所で友達は、「ひどいなあ。でもみんな、それにまけず頑張ってる。私も、やらないかんね」、といってくれました。

僕もいつも、原告団の所を先に見ます。遺族の方がたの、労働者の生活の苦しさがよくわかり、三井資本に、資本主義の世の中に腹が立ちます。

僕は全電通ですが、青年会議で〝若い芽〟というニュースを出しその中で七五春闘を取りくんできたわけですが、もっと仲間と共に学習し、がんばらなくてはとかんじているわけです。

もっともっと三池の仲間、主婦会の仲間、CO患者を守ってたたかっている仲間にまなびつつ、がんばっています。

カンパ、おくります。皆様によろしくお伝え下さい。

×

山口さんのお住まいは、「東京都世田谷区鎌田二―五―一二」で、〝トラック労働者まなぶ会〟でもがんばっていられる方です。ともに前進しましょう。

もっともっと学んで

山口高司

東京

前略

一月より御無沙汰致しました。

三月一日の福岡地裁の上村裁判判決は、あたりまえな事を三井が行っていればおこらなかった事故に対して、あたりまえな事をしていなかった責任の追及であったわけです。

いのちと権利を守るために、あたりまえな事をしてゆくことのむづかしい資本主義社会を変えないかぎり、今東京でたたかわれている知事選にしても、石原というやつに「新しい東京を」などといわせるのです。